

## 個別の指導計画 Q&A

### Q うまくいっているところに視点を当てるのは……?

**A** うまくいっているところは、子どもが自分の力を発揮しているところであり、子どもの成長の芽であるとも考えられます。

うまくいっているところに視点を当てるのは……

\*子どもをほめる機会が多くなる。

\*学級の友達からも認められる機会が増える。

などの理由により、子どもの自信を育てることができるからです。

### 子どもの自信が育つと

自信が育つと、子どもに次のような変容がみられるようになります。

- 人にかかわろうとする気持ちが強くなる。
- 課題に向かおうとする意欲が高くなる。
- 難しい場面でも、自分なりに対処しようとする。



自信が育つと、うまくいっているところがさらに広がるだけでなく、つまづいているところも必ず変化します。自信は、充実した学校生活を送るための原動力になるのです。

通常の学級において、つまづいているところを改善させようという視点が強すぎると、子どもは力を発揮できないことになり、それにより自信を失うこともあります。

子どもの自信を育てるために、うまくいっているところを認め、励まし、ほめていくことが大切なのです。

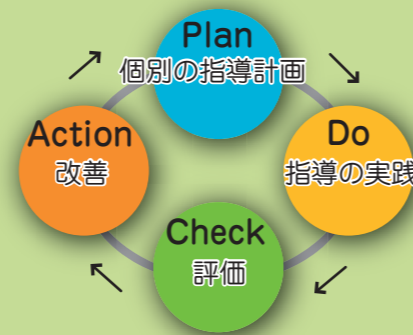
### Q 個別の指導計画の活用による効果は……?

**A** 計画を作成することが目的なのではありません。その子どもに合ったきめ細かな指導を行うために個別の指導計画が必要なのです。

そのためには、PDCAのサイクルを積み重ねていくことが大切です。

個別の指導計画の活用によって、子どもが持っている力を伸ばすことができたり、教師自身の子どもを見る目がより温かくきめ細かくなります。

こうした指導の視点や方法を、他の子どもへの指導にも生かすことで、学級のすべての子どもに対しても効果がみられるようになります。



栃木県教育委員会事務局特別支援教育室

〒320-8501 宇都宮市埜田1丁目1-20  
TEL 028-623-3381 FAX 028-623-3399  
URL <http://www.pref.tochigi.lg.jp/>  
発行 平成23年3月



このマークは、目の不自由な方などのための「音声コード」です。専用の読み上げ装置で読み取ると、記載内容を音声で聞くことができます。



## 学級担任による個別の指導計画の活用

### 通常の学級で特別支援教育をすすめるために

通常の学級で特別支援教育をすすめるためには、障害の有無にかかわらず学級のすべての子どもに対して、一人一人が本来持っている力を最大限に発揮できるように、温かくきめ細かな指導を行っていくことが重要です。そのためには、学習や生活の場面で子どもにとっての“安心感”と“わかりやすさ”を高める指導に取り組むことが大切です。

#### “安心感”を高める

- 子どもの力を認める。
- 子ども同士の認め合い助け合う関係を育てる。
- 集団生活におけるきまりを教える。

#### “わかりやすさ”を高める

- 全体の見通しを伝える。
- 指示は、短く、明確に伝える。
- 言葉だけでなく、視覚的な手がかりも添える。

このことは、通常の学級における指導の基盤となります。

その中で、支援の必要性が高い子どもに対しては、その子どもにとってさらに必要な“安心感”と“わかりやすさ”を高める指導を行っていくことが大切です。

このとき、教師が子どもの気持ちや個性を受け止め、子どもの持っている力を伸ばすことを考えて、取り組んでいきましょう。

支援の必要性が高い  
子どもに対する指導

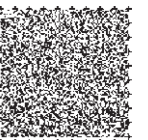
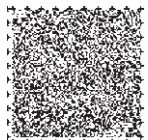
すべての子どもに対する指導

### 「個別の指導計画」とは

支援の必要性が高い子どもに対する指導においては、必要に応じて「個別の指導計画」を作成します。「個別の指導計画」には、次のような役割があります。

- (1) 要点整理  
指導内容を検討して文字で記述することにより、目標や手立てを明確にする。
- (2) 情報共有  
教職員間や教職員と保護者との間で、指導に関する情報を共有する。
- (3) 評価・引継ぎ  
一連の取組の成果を記録する。また、進級や進学及び転学に際し、次の担任が適切な指導を一貫して行えるように引き継ぐ。

まずは、学級で支援の必要性の高い一人の子どもを対象に「個別の指導計画」を作成し、指導の実践を図ってみましょう。



# 記入のしかた



- \*うまくいっているところを生かそう!
- \*2か月程度で達成可能な目標を、一つ、二つに絞ろう!
- \*指導の手立てを具体的に考えよう!

### ①実態

○学習面は授業場面、生活面は授業場面以外のこととします。

○「うまくいっているところ」は指導の有効な手がかりになるので、たくさん見つけるようにします。

- ・できていること
- ・努力していること
- ・得意なこと
- ・興味・関心 等

○「つまずいているところ」の中でも、「～の場合にはうまくいっている」ことなどを見つかるようにしましょう。

### ②指導目標

○「うまくいっているところ」をさらに伸ばすことを主として、指導の目標を考えます。

○今後2か月程度で達成可能な指導目標を立てます。

指導目標の数は、一つまたは二つに絞りましょう。

○「～できる。」と肯定形で記入しましょう。

### ③指導場面

○確実に指導できる場面を設定します。

**【時間】**  
例) 国語の時間、給食、昼休み、清掃、放課後等

**【場所】**  
例) 教室、職員室、清掃場所、通級指導教室等

**【担当】**  
例) 担任、支援員、学年主任、部活動顧問等

### ④指導の手立て

○「うまくいっているところ」や「～の場合にはうまくいっている」ことを活用して、指導の手立てを具体的に設定します。

- ・課題量の調整
- ・時間の調整
- ・言葉かけの工夫
- ・補助教材の活用

氏名	〇〇 〇〇	No. 〇	〇年〇月〇日	〇年〇月〇日	〇〇 〇〇	〇年〇月〇日	〇年〇月〇日
----	-------	-------	--------	--------	-------	--------	--------

	実態	指導目標	指導場面	指導の手立て	評価
学習面	<b>うまくいっているところ</b> ・できていること、努力していること、得意なこと、興味・関心等	<b>さらに伸ばす</b>			
	<b>つまずいているところ</b> ・つまずきの中でも、「～の場合にはうまくいっている」ことや「～まで支援することによってうまくいく」ことを生かして				
生活面	<b>うまくいっているところ</b>	<b>さらに伸ばす</b>			
	<b>つまずいているところ</b>	<b>うまくいっているところを生かして</b>			

### ⑤評価

○指導目標の達成状況について、子どもの行動の様子を記入します。

例) ～ができた。  
～がみられた。

○指導の改善に向けて検討します。

**【改善の視点】**

- \*目標
  - ・継続
  - ・上方修正
  - ・下方修正
- \*手立て
  - ・継続
  - ・改善

# 記入例



《個別の指導計画》 No. 1

学年・組	〇年〇組	担任名	〇〇 〇〇	記入年月日	23年 5月 2日	評価予定日	23年 7月16日
氏名	〇〇 〇〇						

	実態	指導目標	指導場面	指導の手立て	評価
学習面	<b>【うまくいっているところ】</b> ○理科が好きで、観察などの実習では集中して取り組んでいる。  <b>【つまずいているところ】</b> ・国語の音読が苦手である。しかし、ふりがなをつけることで自信をもって読めることが多くなってきた。	○理科の時間は毎時間1回は発言することができる。	○理科の時間 教室、理科室 担任	○その都度言葉かけやノートに丸をつけるなどして、細かいところまで観察できているよさをほめる。意図的に指名し発言の機会を設定することで、本児のよさを他の子どもたちにも伝えていく。	○理科の時間で、毎時間1回は発言することができる。なお一層意欲的に理科の学習に取り組んでいる。
生活面	<b>【うまくいっているところ】</b> ・毎日忘れずに、配り係の仕事がすることができる。  <b>【つまずいているところ】</b> ○清掃の時間では、熱心に廊下の雑巾がけができるが、途中で、友達にちょっかいを出しトラブルになることがある。	○終了時間まで清掃することができる。	○清掃の時間 廊下 担任	○一緒に雑巾がけをしながら、本児の熱心な取組を毎日賞賛していく。終了の音楽がなったら、「きれいなになったね。ありがとう。」と声をかける。	○終了時間まで熱心に清掃することができるようになってきた。



《個別の指導計画》 No. 3

学年・組	〇年〇組	担任名	〇〇 〇〇	記入年月日	23年12月26日	評価予定日	24年 3月 9日
氏名	〇〇 〇〇						

	実態	指導目標	指導場面	指導の手立て	評価
学習面	<b>【うまくいっているところ】</b> ○歴史が好きでテストの成績もよい。歴史新聞づくりが得意である。  <b>【つまずいているところ】</b> ・数学は苦手意識が強い。しかし、机間指導時に意図的に声をかけ、課題を限定すると意欲的に取り組むことができる。	○最後まででいねいに歴史新聞を作成することができる。	○社会の時間 教室 教科担任 担任	○机間指導時、工夫をしながらでいねいに歴史新聞をまとめていることをほめる。作成後、担任や教科担任が教室掲示できるように配慮し、本生徒のよさを友達からも認められるようにする。	○最後まででいねいに仕上げる事ができた。学級の友達からも認められて、うれしそうであった。
生活面	<b>【うまくいっているところ】</b> ○歌うことが好きで、合唱部に参加することを楽しみにしている。  <b>【つまずいているところ】</b> ・思ったことをすぐ口にするため、自分の意思に反して友達から敬遠されてしまう。部活動の友達とはうまくいっている。	○合唱部に休まず参加することができる。	○部活動 (月、水、金) 音楽室 部活動顧問 担任	○顧問は、部活動に一生懸命取り組む姿勢をとらえて、意図的に声をかけ、ほめる。その取組を担任に伝える。担任は、本生徒の部活動への取組について、日ごろからさりげなくほめる。	○部活動顧問や担任が連携して、本生徒のがんばりを認めてきたことにより、部活動を休まずに参加することができた。

\*この「個別の指導計画」の様式は、栃木県教育委員会のホームページにてダウンロードできます。\*